

## 会 議 録

会 議 名	令和6年度（第1回）東松山市立市民病院運営委員会					
開 催 日 時	令和7年1月30日（木）			開 会	13時30分	
				閉 会	15時10分	
開 催 場 所	東松山市立市民病院 南館3階 会議室					
会 議 次 第	1 開会 2 挨拶 3 委員長及び委員長代理の選出 4 議題 （1）令和5年度病院事業決算報告について （2）市民病院経営強化プラン取組状況について 5 その他 6 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	3人		
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	委員長	小野寺 亘	出	委 員	真下 美紀	出
	委員長代理	須田 清美	出	委 員	武藤 正樹	出
	委 員	荒井 和子	出	委 員	森田 恵子	欠
	委 員	奥村 一彦	出			
事 務 局	事業管理者 杉山 聡			病院総務課長 岡部 登		
	院長 野村 恭一			病院総務課副課長 千代田 章男		
	院長補佐 糸部 文子			医事課副課長 川辺 雅史		
	事務部長 野地 一彦			病院総務課主査 比留間 徹		
	事務部次長兼医事課長 小澤 秀明					

次 第	顛 末
1 開 会	事務局 野地事務部長
2 挨拶	杉山事業管理者
3 委員長及び 委員長代理の選 出	東松山市立市民病院運営委員会条例第5条第1項の規定に基づき、委員の互選により小野寺委員が委員長となる。また、同条第3項の規定に基づき、委員長の指名により須田委員が委員長代理となる。
4 議 題	<p>東松山市立市民病院運営委員会条例第6条第1項の規定に基づき、小野寺委員長が議長となる。</p> <p>(小野寺委員長) 議事に入る前に、事務局から確認事項等があればお願いします。</p> <p>○事務局からの確認事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議録の署名委員について</li> <li>・会議の公開の可否及び傍聴人の有無について</li> </ul> <p>(小野寺委員長) 署名委員については、荒井委員と奥村委員にお願いします。 会議の公開については、会議は原則公開され、本日の議題の中には非公開にすべき内容はないと思われまますので、公開することとします。傍聴人は入室してください。</p> <p>(小野寺委員長) 議事に入ります。 議題(1) 令和5年度病院事業決算報告について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局：岡部病院総務課長) 資料に基づいて説明</p> <p>(真下委員) 病床数を110床から146床まで、合計36床増やした理由を教えてください。</p> <p>(事務局：岡部病院総務課長) 現在、救急医療体制を強化しています。また、神経難病の患者を受入れ</p>

しており、110床では足りないことから増床を図りました。

(奥村委員)

令和5年度の予算と決算との関係性を説明してください。

(事務局：岡部病院総務課長)

まず、入院収益は当初の見込みより減少しており、予算との乖離があります。また、材料費については当初の見込みより支出が増えたため、補正予算により材料費の予算を増額して対応しました。

(奥村委員)

予算と乖離しているという理解でよろしいですか。

(事務局：岡部病院総務課長)

当初予算上では、1億円弱の損失を見込んでいましたが、決算では5億円を超える損失となりました。収入の面で予算に追いついていない状況でした。

(武藤委員)

資料1ページにおいて、令和5年度の病床利用率は71.9%とありますが、令和6年度は現時点でどのくらいですか。

(事務局：川辺医事課副課長)

令和6年4月から、一般病床数を146床として計算しております。令和6年12月までの累計利用率は、56.0%です。

(武藤委員)

令和6年度の平均在院日数はどのくらいですか。

(事務局：川辺医事課副課長)

直近の3か月平均で、14日程度です。

(武藤委員)

病床利用率が減った理由について教えてください。

(事務局：川辺医事課副課長)

分母となる病床数が増加したことによるものです。また、延べ患者数は前年度比で200人程度減っています。主な理由としては、今年度から泌尿器科の常勤医師がいなくなったことにより、泌尿器科の延べ患者数が1,400人程度減っていることが大きな要因です。

(武藤委員)

資料5ページの経常収支について、令和3年度と令和4年度は新型コロナ対策補助金により収益が増えていますが、補助金を除いた場合の収支はどうなりますか。

(事務局：岡部病院総務課長)

令和4年度は補助金額が約5億2千万円でしたので、単純計算となりますが、収益から差引すると収支はマイナスとなります。令和3年度においても補助金額が約6億8千万円ですので、差引した場合同様にマイナスとなります。

(武藤委員)

令和6年度の収支の見込はいかかでしょうか。

(事務局：岡部病院総務課長)

令和6年度も人件費・材料費が増えていることから、令和5年度の決算値と同等又はそれ以上の赤字を見込んでおります。

(真下委員)

令和4年度は収益も増えており、患者数も増えて病院内の雰囲気もよくなっていると感じていました。令和5年度決算の収支を見ますと、医業収益は増加しているものの、病床数の増床等に伴い常勤医師の人数が増加するなど大幅に支出が増えた印象があります。ある程度の投資は必要であると思います。今後は、投資を生かしながら収益を増やしていけるかが大切です。スタッフ全員の意識を変えさせ、外来・入院患者数を増やしていくことを考える必要があると考えます。

(小野寺委員長)

今後、医業収益を増やすための具体的な考えはありますか。

(事務局：野地事務部長)

来年度新たに耳鼻咽喉科の常勤医師を1名採用する予定です。手術を行いますので、入院収益・外来収益の増加を見込んでいます。また、GICU及びHCUの改修を行い、救急や外科疾患の重症患者の受入れを増やすための体制を整えています。

今後は、救急輪番の体制を増やしていきたいと考えております。泌尿器科の医師の確保についても引き続き努めていきます。

(小野寺委員長)

医師の確保については、県でも予算措置を行うと聞いていますので、さまざまなツールを用いて医師の確保を進めてもらえればと思います。

(須田委員長代理)

1日平均入院患者数が88.5人で、今後増やしていく必要があると思いますが、対策はどのように考えていますか。

(野村院長)

現在、主に内科と整形外科で入院患者を積極的に受け入れていますが、当院が急性期の入院基本料を算定するためには、平均在院日数は16日以下にしなければならず、早いペースで患者を入れ替えなければならない状況です。患者数は昨年度と比較して増えています。今後は、内科と整形外科以外の診療科でも患者数を増やしていきたいと考えています。

また、救急患者の受入れ体制を改善することにより、入院患者を増やしていくことを考えています。

(須田委員長代理)

病床数を146床に増やしましたが、1日の入院患者数がどのくらい増えればよいと考えていますか。

(野村院長)

病床利用率を85パーセントにしなければ収益は見込めないと思います。今後は、泌尿器科や耳鼻咽喉科で入院患者を増やすことが喫緊の課題となります。

(杉山事業管理者)

当院は、外来から入院する患者は少ない状況です。整形外科部長が新しい患者を発掘するために講演会を開催し患者を呼び込むための取組を行っていますが、それでもまだ少ないです。

今後、入院患者を増やすためには救急を積極的に受け入れる必要があります。現在、神経系あるいは脳卒中の入院患者を確保するための努力をしています。また、比企地域では心筋梗塞を診られる医療機関がないため、心臓系の診療も強化していきたいと考えています。なお、泌尿器科の常勤医師がいなくなった影響はとても大きいと考えます。

(須田委員長代理)

泌尿器科の常勤医師の確保に向けて努力していただければと思います。

(真下委員)

実際に関わっている診療科の医師数を把握できるよう、常勤と非常勤を併せた医師数を資料に掲載していただけると参考になると思います。

資料5ページに市民病院西側駐車場整備の記載がありますが、工事時期、規模、予算はどの程度予定されているのでしょうか。

(事務局：岡部病院総務課長)

現在、設計業者を選定している状況です。令和7年度中に工事を開始したいと考えています。規模は150台分の駐車場整備を予定しています。事業費については、南側斜面や雨水排水対策の整備内容により金額が変動するため未定です。

(武藤委員)

資料3ページに手術件数が全体で916件とありますが、救急受入台数はどのくらいですか。

(事務局：岡部病院総務課長)

令和5年度は年間約1,500件の受入れがありました。令和6年度は約2,000件を見込んでいます。

(武藤委員)

916件の手術件数のうち、救急受入による手術件数は何件ですか。

(杉山事業管理者)

件数は把握していません。

麻酔科の常勤医師が昨年3月で退職され、4月からは非常勤医師による対応となり夜間の緊急手術をできないことが、手術件数が増えない要因となっています。ただし、脳神経外科が夜間手術を行えるよう、毎週水曜のみ夜間に麻酔科医師を確保し対応している状況です。

(武藤委員)

916件のうち全身麻酔の件数は約半数程ですか。

(事務局：川辺医事課副課長)

そのとおりです。

(武藤委員)

t-PA（血栓溶解療法）の治療実績は。

(事務局：川辺医事課副課長)

年間10～20症例程度です。

(武藤委員)

患者は市外の方が多いですか。

(野村院長)

約20km圏内の近隣施設及び埼玉医科大学で対応できない患者が当院に搬送されます。

(小野寺委員長)

続きまして、議題(2)市民病院経営強化プラン取組状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：小澤事務部次長) 資料に基づいて説明

(武藤委員)

資料1ページ「高度・専門的な診療体制の構築」の中で、「急性期脳血管障害や神経難病等の医療提供体制を整備する」とありますが、こちらは確定で間違いありませんか。

(杉山事業管理者)

間違いありません。

(武藤委員)

広域な範囲を想定していると思いますが、市民病院の役割としてこれらの疾患を対象とした急性期医療を行うことは確定しており、方針を基に実施していくことでよろしいでしょうか。

(杉山事業管理者)

令和3年度比企広域消防本部において、脳卒中の疑いに関する年間330症例を隣の熊谷市に搬送しています。今後は比企地区で受け入れたいと考えており、急性期医療は今後も実施していきます。そのために、設備投資及び医師の確保を行いました。

(武藤委員)

設備や人員確保などは、相当な投資を行わなければならないと思います。人口9万人の東松山市において、財政負担の面から耐えていけるのでしょうか。

(杉山事業管理者)

投資に関しては、血管撮影装置を新規導入し、脳外科手術が行える状況になっています。足りないのは常勤の麻酔科医師のみで、夜間の麻酔対応が行えれば手術件数も増えていくと思います。今後、新たに投資することは多くないと考えています。

(武藤委員)

毎年5億円近い赤字を出した上でも投資をして、方針を貫くという決意でよろしいですか。

(杉山事業管理者)

そのとおりです。

(武藤委員)

資料3ページの「経営形態の見直し」で、地域医療連携推進法人・独立行政法人の経営形態を検討するとありますが、こうした仕組みを使って市民病院を急性期病院として行っていくことに対する勝算はありますか。

(杉山事業管理者)

地域医療連携推進法人に関しては、近隣の東松山医師会病院と連携した取組を現在考えています。また、独立行政法人に移行することで、公立病院より今後の動きがスムーズになるものと考えています。なお、これらは現在検討中であります。

(武藤委員)

急性期病院として維持し発展していくために、指定管理者制度を活用することは考えていませんか。

(杉山事業管理者)

私が2019年に就任した当初は、市民病院を維持していくために指定管理者制度の導入も選択肢の一つとして考えていました。

(武藤委員)

今後、経営形態をゼロベースで考えていく必要があると考えます。

(荒井委員)

昨年9月の市議会の議事録を読ませていただきましたが、市民病院の経営状態は厳しいと思います。公立病院は不採算部門を行う必要はあるのですが、以前に比べて経営に関しては厳しく言われています。経営強化プランは現在の医療の情勢に合っているか、東松山市民にとって求められている医療なのかについて考えながら、適宜見直す必要があると思います。このことは、地域医療構想の考え方にもつながります。新型コロナを境に医療の状況は変わりましたので、臨機応変に考えるスタンスを取る必要があると思います。

(奥村委員)

資料1 ページ、9番の訪問看護ステーションについて、設置の目的として収益を上げるためではなく、在宅医療、地域包括ケアシステムへの参画を重点的に取り組むという考え方でよいでしょうか。

(野村院長)

ご指摘のとおりです。

(奥村委員)

診療所や居宅介護事業所との連携ツールとして、メディカルケアステーションを比企医師会が事務局として取り組まれています。現在、活用されている医師はいますか。また、今後活用する予定はありますか。

(糸部院長補佐)

今のところ活用している医師はいません。今後、活用できるようであれば関わりたいと考えています。

(奥村委員)

メディカルケアステーションの仕組みは簡潔であるため、活用されると連携が進むと思います。

(小野寺委員長)

資料の中で東松山医師会病院に関する記載が複数ありますが、医師会病院との連携についてはどのような状況ですか。

(杉山事業管理者)

東松山医師会病院との役割を明確化するまでは、非常に似た診療・患者を取り扱っていました。2019年の厚生労働省からの統合再編の話で挙げた県内7施設のうち2施設が当院と医師会病院でした。この話を受けて、それぞれの病院において役目があると思いましたが、医師会病院の先生方とも協議し、当院は急性期、医師会病院は回復期を中心に協力しながら行っていくことで話を進めています。

しかしながら、現時点ではまだ連携面では弱い部分がありますので、協力関係を強固にしなければならないと考えています。今後も、話し合いを進めていきたいと思っています。

(小野寺委員長)

地域医療を考えたときに、どのように役割分担をしていくのかを検討し、連携を密にしていきたいと思います。

